

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり、その上で、家庭や地域と一緒に児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考え方から、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語、算数、理科、児童質問調査)

中学校 第3学年(国語、数学、理科、生徒質問調査)

4 本校の参加状況

- | | |
|------|-----|
| ① 国語 | 15人 |
| ② 算数 | 15人 |
| ③ 理科 | 15人 |

5 留意事項

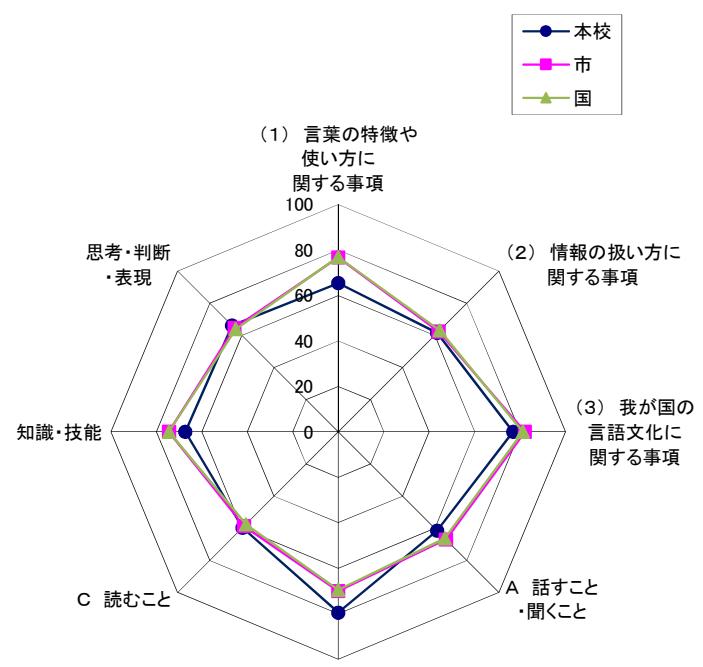
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山西小学校第6学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	65.4	76.7	76.9
	(2) 情報の扱い方に関する事項	61.5	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	76.9	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	61.5	67.0	66.3
	B 書くこと	79.5	70.0	69.5
	C 読むこと	59.6	58.6	57.5
観点	知識・技能	67.3	74.5	74.5
	思考・判断・表現	66.2	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

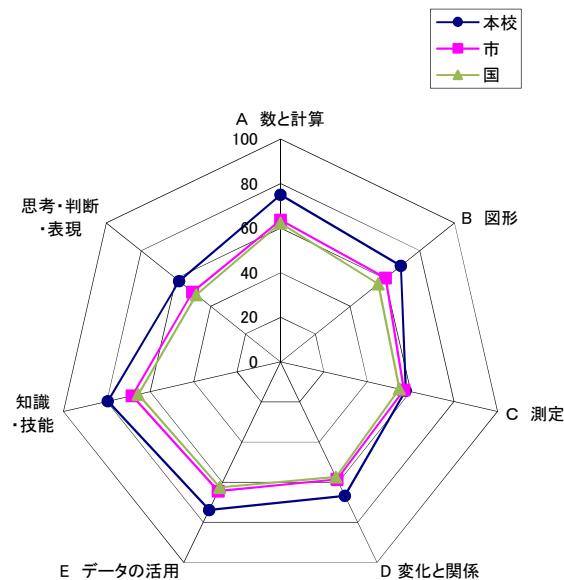
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は65.4%で、市平均を大きく下回った。 ●学年別漢字配当表に示されている漢字を書く設問において、市平均を大きく下回った。	・基礎的な事項について、朝の学習や宿題などを通して定着を図る。 ・該当学年以前の既習事項についても復習する機会を設けるようにし、向上を図る。
(2) 情報の扱い方に関する事項	平均正答率は61.5%で、市平均と同程度であった。 ○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句の関係の表し方を理解し使うことができるかどうかを見る設問において、市の平均と同程度であった。	・他教科領域との関連付けを図り、様々な情報の整理や活用の仕方を取り入れて表現する活動を行っていく。 ・スライド作成やスピーチ、文章を書くための構成を考える際に、構成モードの活用を推進するとともに、ウェブイングマップやその他の資料も活用した活動も経験させ、多くの課題解決方法に触れる機会を設けていく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は76.9%で、市平均を下回った。 ●設問が1問しかないため、正答が1人多ければ市平均を上回る結果となる状況でもあった。誤答の結果から、言語文化に関する理解よりも、選択肢の文の読み取りを誤っていると思われる。	・単に知識として日本の言語文化を学ぶだけでなく、その文化的背景を掘り下げて指導し、学んだ古典や昔話を基に、自分たちで物語を創作したり、絵本にしたりする表現活動を取り入れ、言語文化をより身近なものとして捉えられるようにしていく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は61.5%で、市平均を下回った。 ○話し手の考え方と比較しながら、自分の考え方をまとめることができるかどうかを見る設問において、市平均を大きく上回った。 ●自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかを見る設問において、市平均を大きく下回った。	・グループワークや発表の時間を増やし、自分の意見を論理的に組み立てて話す練習を重ねていく。また、相手の発言の意図を汲み取り、それに対して適切に反応する練習として、ペアでの対話活動も積極的に取り入れていく。
B 書くこと	平均正答率は79.5%で、市平均を上回った。 ○目的や意図に応じて、事実と感想や意見などを区別して書くなど、自分の考え方を伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかを見る設問において、市平均を非常に大きく上回った。	・各教科の学習で、自分の考え方をノートにまとめたり、まとめや振り返りを言語化する活動を日常的に行っている成果であると考えられる。今年度、書くことへの取組として語彙力アップにも力を入れているところなので、表現力をより身に付けられるように指導していく。
C 読むこと	平均正答率は59.6%で、市平均と同程度だった。 ○事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかを見る設問において、市平均を大きく上回った。 ●目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかの設問において、市平均を下回った。	・文章中から当てはまる言葉を選び出すことはできている。だが、内容の大体を捉えたり、図表と結び付けて自分の考え方をまとめたりすることは苦手な傾向と思われる。今後は、話の内容や考え方などを要約するといった学習活動を意図的に取り入れ、必要な情報を見付けられるようにしていく。 ・社会科の図表の読み取り学習など、他教科と関連させて学びを広げ生かせるような指導をしていく。

宇都宮市立城山西小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	75.0	63.6	62.3
	B 図形	69.2	60.4	56.2
	C 測定	57.7	56.9	54.8
	D 変化と関係	66.7	58.6	57.5
	E データの活用	73.8	64.4	62.6
観点	知識・技能	79.5	68.3	65.5
	思考・判断・表現	58.2	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

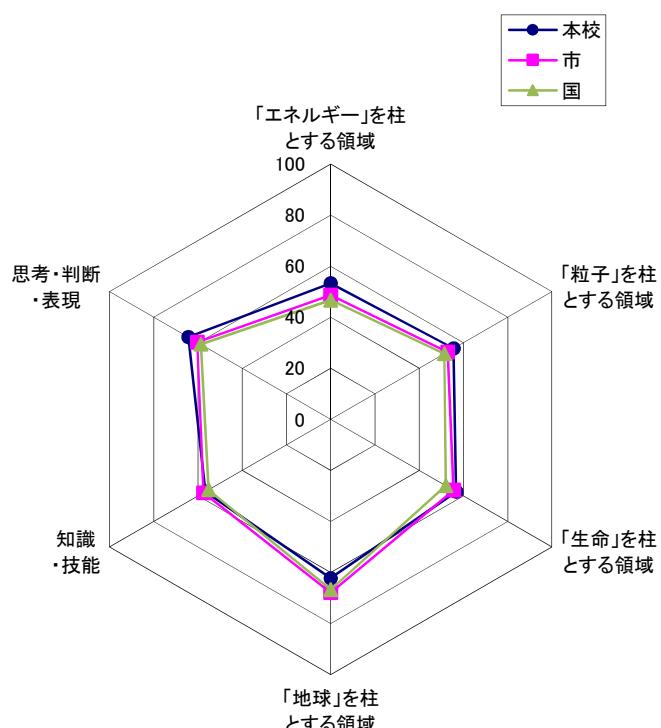
分類・区分	本年度の状況	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの
A 数と計算	平均正答率は75.0%で、市平均を大きく上回った。 ○全ての設問において市平均を上回り、特に棒グラフから出荷量が何倍かを読み取る設問や、小数の計算を整数の加法におきかえて考える設問では、平均正答率92.3%と、市平均を大きく上回った。 ●分数の加法について、共通する単位分数のいくつ分かを数や言葉を用いて記述する設問では、市平均を上回ったものの、平均正答率は30.8%だった。	・既習の学習が定着しており、何倍かを求めたり、乗法・加法が混合する計算をしたりと、計算を問題文の中で生かすことができていた。今後も基礎となる計算練習に取り組ませるとともに、計算が日常生活の中で生かせるような経験を積ませる。 ・異分母分数の加減法の計算はできるが、どうしてそうなるかの理解が不十分であるため、記述で説明できない。異分母分数の加法減法の指導では、分子が「1」の「もとにする分数」について、しっかりと抑えていく。
B 図形	平均正答率は69.2%で、市平均を上回った。 ○正多角形の面積の求め方を式や言葉を用いて記述する設問において、市平均を大きく上回ったが、平均正答率53.8%と高くなかった。 ●全ての設問において市平均を上回ったが、图形の領域では数と計算の領域に比べて、平均正答率は低い。	・今後も图形の学習においては、具体物を扱いながら学習することで、图形を構成する要素を視覚的や感覚的に学ぶことができるようとする。 ・多角形の面積の求積において、多面的に捉えさせて、求積には様々な方法があることを実感させる。また、自分の考え方だけでなく友達の考えにも触れさせ、色々な方法で面積を求めることができるようとする。
C 測定	平均正答率は57.7%で、市平均と同程度だった。 ○はかりの目盛りを読む設問において、平均正答率61.5%で市平均をやや上回った。 ●伴って変わる二つの数量の関係に着目して、問題を解決するために必要な数量を見いだす設問において、市平均を上回ったが、平均正答率53.8%と高くない。	・はかりだけではなく、目盛りを読み取る問題では、まず1目盛りがいくつになるのかを考える必要がある。今後も、はかりや数直線等の問題を、定期的に朝の学習や家庭学習等で課題にしていく。 ・長い問題文を読み、題意を読み取ることを苦手とする児童が多い。日常の学習の中でも、しっかりと読み取り、考えを深め、記述で説明する学習を取り入れる。
C 変化と関係	平均正答率は66.7%で、市平均を上回った。 ○伴って変わる二つの数量に着目して問題を解決するために必要な数量を見い出す設問において、平均正答率92.3%と市平均を上回った。 ●伴って変わる二つの数量に着目して問題を解決するために、その求め方を式や言葉を用いて記述する設問においては、市平均はやや上回ったが、平均正答率は53.8%と高くない。	・伴って変わる二つの数量では、問題を読み解し場面の状況を捉えることにつまずきがあると考えられる。数値だけでなく、数を言葉に直して場面の理解を確実なものにしていく。 ・分かりやすく記述で説明することが苦手な児童が多い。毎時間の学習の中で、自分の考えを文章化する時間を意図的に設ける。
D データの活用	平均正答率は73.8%で、市平均を上回った。 ○簡単な二次元の数から、条件に合った項目を選択する設問において、平均正答率92.3%と市平均を大きく上回った。 ●目的に応じて適切なグラフを選択して、その理由について記述できるかどうかを見る設問において、市平均をやや上回ったが平均正答率38.5%と高くない。	・さまざまなパターンの表やグラフの読み方について補充プリント等を活用して、さらに習熟を図っていく。 ・記述を要する問題については、何を問われているのかを押さえ、それに対して条件を満たしながらどう答えていけばよいかを繰り返し練習を行い、記述の仕方を身に付けさせていく。

宇都宮市立城山西小学校第6学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	53.3	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	55.6	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	56.7	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	62.2	67.9	66.7
観点	知識・技能	56.7	57.5	55.3
	思考・判断・表現	64.4	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率が53.3%で、市平均を上回った。 ○電気の回路のつくり方や電流がつくる磁力についての設問において、2問とも市平均を大きく上回っている。 ●身の回りの金属について、電気を通す物や磁石に引き付けられる物があることについての知識が身についているかどうかを見る設問においては、市平均と同程度の13.4%であり、正答率は低い。	・それぞれの物質を実際に手に取り、磁石を近づけたり、電気を通すか調べたりする実験を繰り返し、単なる暗記ではなく、五感を通して性質を理解できるようにする。また、クリップ(鉄)、10円玉(銅)、アルミホイル(アルミニウム)など、身の回りにある具体例と結びつけることで、知識の定着と応用力を高めていく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率が55.6%で、市平均を上回った。 ○水の温まり方について、観察・実験の方法を検討してまとめる力と、「水は温まるほど体積が増える」という知識を根拠に、海面水位の上昇理由を説明する力をみる設問において、2問とも市平均を大きく上回っている。	・水の蒸発と結露が、温度変化による状態変化であることを理解させるために、水は温まると蒸発して気体になり、冷やされると結露して再び液体になることを、実際にビーカーを温めたり、冷たいペットボトルを使ったりする実験を通して体験させる。また、これらの現象が日常のどのような場面で起きているか、例えば洗濯物が乾くことや、窓に水滴が付くことと関連付けて説明することで、概念的な理解を促すようにしていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率が56.7%で市平均と同程度だった。 ○顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかどうかをみる設問において、市平均を大きく上回った。 ●ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる設問と発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる設問において、市平均を下回った。	・校庭の植物や生き物の観察を定期的に行い、生命の成長や変化を実感する機会を多く設けていく。また、理科室での実験や調べ学習を通して、生物の体のつくりや生命活動の仕組みについて学ぶ機会を設けていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率が62.2%で市平均を下回った。 ○氷がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解しているかどうかをみる設問において、市平均をやや上回った。 ●赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる設問と水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる設問において、市平均を大きく下回った。	・地球全体の水の循環(水蒸気、雲、雨、川、海)や、地球温暖化といった地球規模の課題について、1人1台端末を計画的に利用し、写真や動画資料を効果的に活用しながら学習していくことで、身近な自然現象が、地球という大きなシステムの中でどのように起こっているのか理解を深めていく。

宇都宮市立城山西小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の設問において、児童の肯定割合が93.4%で、「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」の設問においては、児童の肯定割合が100%だった。少人数であることを生かし、一人一人の特性を把握しながら指導したり、学力向上指導教員やICT機器を活用した学びの個別最適化を図ったりしていることが有効だと考えられる。
- 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。」の設問において、児童の肯定割合が100%で、県平均を上回った。日頃からの様々な教育活動や行事等を通じての地域・保護者との連携の結果、地域への愛着心が育まれていると考えられる。今後も、授業や特別活動、行事等を通して、人の役に立つ喜びを味わわせたり、誰かと協力することの素晴らしさを感じさせたりしたい。
- 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方方に気付いたりすることができます。」の設問において児童の肯定割合が、県平均を上回った。
- 「国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたりくわしく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていますか」の設問において、児童の肯定割合が、県平均をやや上回った。これは「国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれますか。」の設問において、児童の肯定割合が、県平均を大きく上回り、また「国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこか伝えてくれますか。」の設問においては、児童の肯定割合が100%であったことから、日々の個に応じた指導が活かされていると考えられる。
- 「自分には、よいところがあると思いますか。」の設問において、県平均を大きく下回った。日々の学校生活の中で、一人一人のよさを発揮できるよう場を設けたり、できしたことに対して褒めて伸ばしたりしていく必要がある。
- 「分からぬことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。」の設問において、児童の肯定割合が県平均を大きく下回った。友達や先生との交流の中で、自分の考えを深め新たな考えに気付く児童が多いが、自分一人でじっくりと課題に取り組むのに自信のない児童が一定数いることが分かる。日々の授業で、「自力で課題解決にあたる」時間と「交流して課題解決にあたる」時間を、児童一人一人の学びを見取り、適切に支援していく中で、最適な学習形態を選択していく必要がある。
- 「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると思いますか。」の設問において、県平均を下回った。様々な授業で、授業で学んだことを生活上と結び付けて生かそうとする機会があまりないと思われる。生活のどの場面で生かせるか、身近な問題を取り上げた授業展開の工夫をし、生活に生かしていくようにする。
- 「算数の問題の解き方が分からぬときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。」「算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか。」の設問において、県平均をやや下回った。少人数授業がゆえに、児童の「分からぬ」「できない」にすぐに反応し、教師側が話しあがめたり教えすぎたりしている懸念がある。児童一人一人のアウトプットを増やすために、児童同士の対話的な学びを確保ていき、児童が自分自身でできる喜び、分かる嬉しさ、あきらめないで取り組むよさを味わわせていきたい。

宇都宮市立城山西小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「聞く」ことの重点的な指導	・「聞く」ことの大切さを理解し、他者の話に進んで耳を傾けるとともに、それを自身の考えと比較したり反映させたりしていくよう働きかけていく。 ・自分の考えや分かったことを他者に伝えたいという思いをもち、積極的に発信しようと思える学習活動の工夫。	・ほとんどの児童が、友達と話すとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができていると答えていた。 ・学級は発言しやすい雰囲気があり、話合い活動も積極的に取り入れられている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしいと感じている児童が約6割いる。 ・困難な課題に対して、粘り強く取り組む姿勢に課題が見られる。	「書く」ことの素地づくりのための指導	・話合い(やりとり)をしたことで、自分の考えをもち、それを整理し可視化できるようにするための、教師による発問や課題提示、話合いの形態などの工夫。 ・児童が自分の考えや疑問に思ったことなどを他者に伝えたいという思いをもち、積極的に書いて発信しようと思える学習活動の工夫。